

建築研究資料 第.108号 (2007 (平成19年) 12月)

「住宅・住環境の安全・安心に関する継続的な意識調査および分析」の出版について

(独) 建築研究所の重点研究課題「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発 (平成18～20年度)」では、「防犯」「建築内事故の防止」「歩行空間の安全性」「ユニバーサルデザイン及び分野横断的課題」というテーマについて横断的に研究・開発を行っています。この一環として平成18年度に安心安全に関する全国規模の基礎調査を実施し (調査期間;平成19年3月、調査方法;インターネット調査、有効回答数;2,508人)、この度、建築研究資料として出版することといたしました。この調査は、本研究課題の期間の3年間継続的に行うもので、その第一弾になるものです。

(主な知見)

1. 「事件事故などに関する評価・認識と各種取り組みに対する意見や対策について」
  - ◆ 防犯活動など安心安全に関わる活動や様々な地域活動への参加意向は、参加経験がある人ほど高い傾向にある。「生活上の安全安心に対する不安」の程度と各種活動への参加意向との間には、明確な相関は認められなかった。
2. 「住んでいる地域・自宅についての「安全-危険度」と「不安度」の違いに関する検討」
  - ◆ 安全-危険度の設問において「危険」側と回答したのに「不安を感じない」ものには、近隣トラブル (近所づきあいは良好ではないが、近隣トラブルの不安は感じない)、近隣扶助 (現在住んでいる地域は、いざというときに頼りになる人が多くはないが、助け合える人がいないという不安は感じない)、自宅内での転倒転落等の事故、車上ねらい等が多い。
  - ◆ 「安全」側と回答したのに「不安を感じる」のは、救急医療 (整っているがいざというときに不安がある)、近隣トラブル (近所づきあいが良好な地域だが、近所づきあいで不快なトラブルに巻き込まれることへの不安)、地震で被災、交通事故等が多い。
3. 「地域への不安内容 (自由記述) に関する検討」
  - ◆ 本課題で取り上げているテーマの中においては、「犯罪」に関する記述が最も多く、次いで「コミュニティ (近隣関係、地域性等)」「人 (居住者、来訪者のマナー、人口構成等)」であった。一方、実際には発生頻度が他の項目に比べ高く「死亡」につながる可能性もある「建築に関わる事故」や「バリアフリー」に関しては、さほど記述は多くなかった。
  - ◆ 不安要素については、女性、若い男性、子どもと同居者、単身者などの対象者毎に以下に示す特徴的な傾向が確認できた。
    - ・ 女性 (年代を問わず); 近所づきあい (コミュニティ、住民)、暗い場所・道、夜、路上犯罪、ひったくり等
    - ・ 若い男性; 住宅密集・狭隘道路、建物性能、迷惑な若者、騒音、地域振興、交通等
    - ・ 子供と同居者; 子供のこと、誘拐、不審者、環境の悪さ、繁華街、工場地帯等
    - ・ 単身者; 地域を知らない、対策不十分、放火、自然災害等

以上

**(内容の問合せ先)**

建築生産研究グループ

眞方山 美穂

電話 029-864-6621 (直通)

E-mail [makap@kenken.go.jp](mailto:makap@kenken.go.jp)